松禪寺報

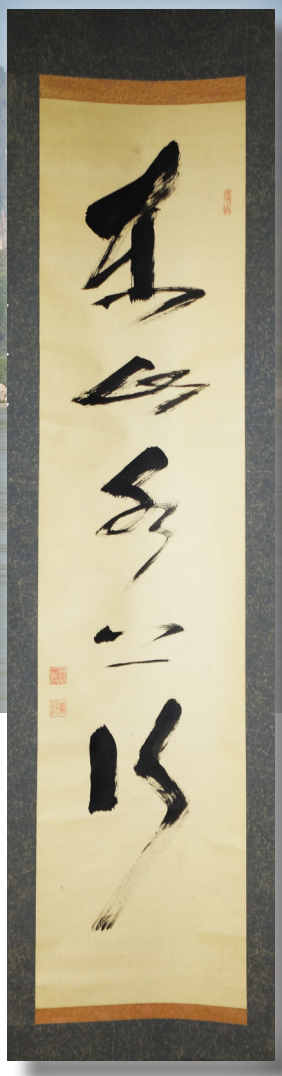
第 59 号

http://syozen.com
https://www.facebook.com/syozenji

発行日　平成 26 年 7 月 20 日

石室山 松禪寺

住職　髙橋　乾峰
〒 668-0363
兵庫県豊岡市但東町栗尾 469
電話　0796-55-0034
FAX　0796-55-0066
Mail　kenpou@syozen.com



「東山水上行」
絶海文光老大師 筆

とうざんすいじょうこう
東山水上行

東山が水上を流れゆく

山は不動、水は流れるという普通の見方ではなく、山が水上を流れると解されます。仏とは、悟りとはどういうものかと訊かれた中国の禅僧・雲門文偃（うんもんぶんえん）禅師（８６４年～９４９年）の答えです。分別や常識に執着しない自由な心のはたらきを「水上行」と表現しました。一切の存在に仏性があるが、それは定まったすがたではなく、自分が動けば山も流れるように、山と自分が一体になる、つまり、仏も自分も一体であるというのです。

栗尾ふるさと委員会「ふるさと135」の主催で

こととしも薬師祭を執り行いました

満州開拓団の紙芝居を上演、永久平和を祈りました

健康長寿・無病息災などを祈願する「薬師祭」を7月13日（日）、松禪寺を会場に栗尾ふるさと委員会「ふるさと135」（会長・西垣勝美さん）が催しました。当日は朝から断続的に雨が降りましたが、祭を始める午後からは雨も上がり、地域内外から約80名が訪れました。

午前11時の写経にはじまり、ふるさと委員長・西垣勝美さん、栗尾区長・兼井正美さん、来賓・福田嗣久さんの挨拶などをいただきました。午後1時半から薬師堂で法要を行い「オン、コロコロ、センダリ、マトウギ、ソワカ」と皆さんで唱え、「福慧増長し心身安楽にして、諸縁吉祥ならんことを」と祈願いたしました。この間、境内ではペッタンペッタンと威勢良くふるまい餅の餅つきが行われました。

▲紙芝居「国策に散った満州開拓団の夢」を上演しました

午後2時半、全員で戦災殉難者を弔うために般若心経を唱え、先の大戦で満州に渡り悲劇に遭う開拓団の紙芝居を上演しました。この紙芝居「国策に散った満州開拓団の夢」は、「高橋村・満州開拓団の歴史を語り継ぐ会」が、開拓団として家族と一緒に満州に渡った石坪馨さんの手記をもとに制作したもので、朗読は浅田和子さん（久畑）が担当されています。第13次大兵庫開拓団を組織するという県内への呼びかけに、あらゆる地域が組織できないというなか、最後に残った高橋村は半ば強制的に人選され開拓団が組織化されました。昭和19年、開拓団は満州に渡り農作業に励みますが、昭和20年8月にソ連が宣戦布告するなか、開拓団員は召集されないという当初の約束もむなしく、男性が次々と戦地に送り込まれ、開拓団には女性と子ども、お年寄りが残るばかりとなりました。開拓団に引き揚げの命令が下され、最小限の荷物を持って蘭西県城へ移動するも、この県城も結局出されることになり、江上軍（日本の軍隊に召集されていた中国人の部隊）などに追われ、あるいは地元民に助けられながら村を転々としますが、結局入水自決し亡くなりました。紙芝居上演の後、石坪馨さんが話されましたが、「入水自決の場面は今でも忘れられない。書こ

▲お供えしたお餅を参拝者皆さんに配りました

うとしても書けないのです。」と涙ながらに話されました。石坪さんら5人の少年（当時16、17歳）は、何としても生きて帰り、報告してくれという命令を泣く泣く聞き入れたそうです。しかし、あまりにも惨い出来事にしばらくは話すこともなかったそうです。ただ、「伝えてくれ」という義務を果たしていないことに気づき、手記に託されたのです。石坪さんは、「こんな悲惨なことが二度と起こらないようにしてほしい」と、最後に訴えられました。

▲前日の餅つきにも多数の協力をいただきました

▲紙芝居の原作となった手記を書かれた石坪さんのお話も聴きました

妙心寺派では、永久平和のための啓発活動を展開しています。戦争は、多くの民間人をも巻き込む最大の人権侵害といえます。暴力に訴えない世の中を築くことを、聴衆一同願はずにはいられない紙芝居でした。

先住・瑞峰和尚十三回忌を厳修

5月25日、五月晴れのもと先住英州和尚13回忌を、京都花園は妙心僧堂の師家である雪丸令敏（岫雲軒）老大師のご導師のもと、法類寺院、教区内寺院、縁故親戚寺院ご尊宿方のご出頭をいただいて営むことができました。

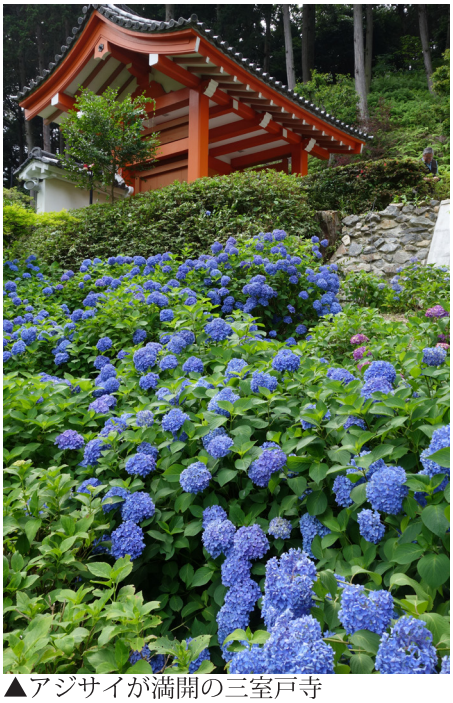
▲妙心僧堂老大師のご導師のもと十三回忌を執行いたしました

この法要執行にあたり、松禪寺護持会をを通して檀信徒皆さんのご協力をいただき、お陰様を持ちまして無事円成と相成りました。この度も多くのご縁をいただき、盛大に営む事ができましたこと、心より感謝申し上げます。

百八煩悩消滅巡拝を満願

京都・東寺へお礼のお参りに行ってきました

四国別格二十霊場を巡る「百八煩悩消滅の旅」は、第1回を平成25年4月に、第2回を平成26年3月に、そして、満願のお礼参りを6月16日（月）から17日（火）の一泊二日で、京都は東寺「教王護国寺」へ行ってきました。東寺は平安遷都とともに建立された官寺で、唯一残る平安京の遺構です。嵯峨天皇から託された弘法大師空海は、御影堂を住居として造営にあたりました。参拝者一同、ここで無事に満願できたことのお礼のお参りを済ませ、東寺の各種伽藍を拝観してまわりました。


▲アジサイが満開の三室戸寺

▲京都・東寺にてお礼のお参りを無事済ませました

昼食を済ませ、午後は宇治市にある西国三十三所観音第10番の札所である三室戸寺（本山修験宗の別格本山）を訪れました。5千坪の大庭園に、アジサイ1万株が色とりどりの花を咲かせており、それは見事でした。その後、八つ橋工場などを見学した後、おごと温泉に向かい今夜の宿所に入りました。

▲静かに、ゆったりと近江八幡水郷めぐり

17日は、近江八幡水郷めぐりに出かけました。琵琶湖八景のひとつを和船で巡るもので、船頭さんの楽しい話を聞きながら、初夏の風を感じながらの遊覧でした。続いて、平安時代の創建といわれ、古くから近江商人の信仰をあつめてきた日牟禮八幡宮（滋賀県近江八幡市）に参拝しました。古き商家のたたずまいを残す街並みと、和菓子と洋菓子の有名店も軒を連ねており、買い物も楽しめました。

最後に、京都市内へ戻り月桂冠大倉記念館を観覧し、帰路に就きました。帰りの車中では、「四国霊場巡拝を無事終えた安堵感もあるが、寂しさもある」と、次の企画を期待する声も聞かれました。新たな企画を出しましたら、ぜひ多くの皆さんのご参加をお待ち申し上げております。

永代供養墓

大慈大悲塔（だいじだいひとう）

ご利用ご契約をお待ち申し上げております

大慈大悲の手を垂れて

種々の済度をなしたもう

松禪寺護持会ではこの度、永代供養墓「大慈大悲塔」を建立しました。

◎永代供養墓が必要な背景

・血縁の薄い方、継承者に恵まれないために、近い将来にお墓が無縁になるかもしれないといった不安を抱く人がある。

・都会で暮らしているうえに、他家に嫁いだ娘が実家の墓を護っているが、両親あるいは古い先祖のお墓をまとめ、後の供養をお寺にまかせたい。

・都会で夫婦で暮らしているが、後をみてくれる子どもがいない、あるいは子どもがいても娘だけで、墓をつくっても後をみるものがいない。

◎永代供養墓「大慈大悲塔」の特徴

・合祀ではなく一霊一家個別に納骨できる。

・骨壺で保管する方法ではなく、晒し布に移し替えて埋葬する。

・希望によって合祀も行う。

・先祖代々のお墓として複数の霊位をお祀りすることもできる。

・彼岸、お盆などには合同供養を行う。

・宗旨、宗派は問わず、松禪寺の檀家になる必要もない。（ただし、希望していただければ準会員として登録も行います。）

◎ご相談、ご予約を承ります

すでにご契約を数件いただいております。少しでも気になりましたら、ぜひ、まずはご相談ください。

◎永代供養墓をはじめ松禪寺霊園は、松禪寺護持会の運営により維持し、松禪寺の発展に寄与すべく行っております。何卒この霊園運営に格別のご理解とご協力をお願いいたします。

また、霊園分譲も引き続き行っております。

永代供養墓「大慈大悲塔」　契約者募集中

宗教・宗派問いません

合祀ではなく一霊一家個別納骨できます

骨壺で保管するのではなく埋葬いたします

先祖代々など複数霊位のお祀りも可能

臨済宗妙心寺派　松禪寺

〒668－0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾469

電話　0796（55）0034

FAX　0796（55）0066

E-mail kenpou@syozen.com

ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発を

いまだ根深い差別と偏見を恐れる元患者とその家族

ハンセン病をご存知でしょうか。かつては「らい」と呼ばれていましたが、この病名が偏見や差別を生むものとして「ハンセン病」と呼ばれるようになりました。現在、日本にはハンセン病患者はいませんが、その差別はいまだ存在します。

7月8日、岡山県瀬戸内市にある長島愛生園を訪れる機会を得ました。昭和5年11月、日本初の国立療養所として設置され、ハンセン病患者の隔離が行われた場所です。

ハンセン病は、1873年にノルウェーのアルマウェル・ハンセンによって発見された細菌による感染症です。体の末梢神経が麻痺したり、皮膚がただれたりする状態になるのが特徴で、病気が進むと顔や手足などの目立つところが変形したり不自由になったりする後遺症がのこることがありました。有効な治療薬がなかった。現在では薬で完治し、早期発見と早期治療によって後遺症を残すことはなくなっています。

しかし、ハンセン病は治っているにもかかわらず、後遺症により顔など身体に障がいを伴うため、私たちはいまだ偏見を抱き差別をしています。愛生園では、実家に帰れることなく、ここを終の棲家とされ、しかも高齢化している現状を聴きました。今なお、偽名で暮らし続け、亡くなってもお骨をひきとられることもなく、愛生園にある納骨堂に祀られています。愛生園で暮らす人も、また、その家族も、じつは私たちの目を恐れているということを、長島愛生園歴史館を案内してくださった学芸員さんは言われ、偏見と差別の根深さを実感しました。

▲人権研修の場としても活用される長島愛生園歴史館

最後に、かつて14歳で愛生園に来られ、以後ここで暮らし続ける自治会長さんのお話を伺いました。辛く、苦労された話しを淡々と話されますが、最後には、振り返ればここでの生活も楽しかったとも言われました。

一人一人の心の奥底にいまだ眠る差別と偏見、その解消に努力して欲しいと学芸員さんはお願いとして言われました。

そして今、「長島愛生園」と「邑久光明園」は昨年の秋、世界遺産登録に向けた準備会を発足させました。

▲入所者や職員などが祀られる万霊山納骨堂

和尚メモ clip

識字（しきじ）のこと、ご存知でしたか？

日本にもまだまだ、読み書きができない人たちが暮らしています

識字（しきじ）という言葉をご存知でしょうか。辞書では「文字の読み書きができること」とあります。この識字をテーマにした第23回ヒューマンライツセミナー「しきじのいま、そしてこれからー世界・日本」（主催：第23回ヒューマンライツセミナー実行委員会）が7月2日、大阪男女共同参画・青少年センターで開かれ出席しました。

このセミナーでいただいた資料「まなぶ・つながる・うごきだす～国内の識字・日本語学習をめぐる状況と課題」には、識字の概念は「健康で文的な日常生活すごすのに最低限度必要な読み書きの力に加え、自らの権利を使うことや仕事につくことなど、効果的に社会に参加できるようになるために必要な読み書きの力。」と定めており、単に読み書きだけに止まるものではないことがわかります。

基調提案をされた大阪教育大学教職教育研究センター教授の森実（もりみのる）先生は、大坂府内には、識字学級や日本語教室など2百を超える学級や教室が開かれ、11校の夜間中学校があるといいます。そこには多くのボランティアが集い参加して、これら教室を支えています。

観光などで海外に行かれた人は実感としてあると思いますが、街のなかにあるお店の看板や道路標識などが全く読めない、理解できなかったらどうしますか。日本語の文字が読めない人は、あなたが海外で経験したことと同じ状態なのです。そして、日本には戦争や差別、貧困、障がいがあるなどの理由で学校に行きたくても行けなかった人たちがいるのです。あるいは、大阪市で結婚した夫婦百組のうち10組はすくなくとも夫婦のどちらかが外国籍といいます。当然、日本語が読めないという人も多いといえます。

国際連合は、世界中で文字の読み書きができない人をなくすため、1990年を「国際識字年」と決めました。2000年になっても世界中で8億8千万人の読み書きができない成人がいて、1億1千3百万人の子どもたちが学校に行けずにいると、「識字・日本語研究会」の資料には示されています。

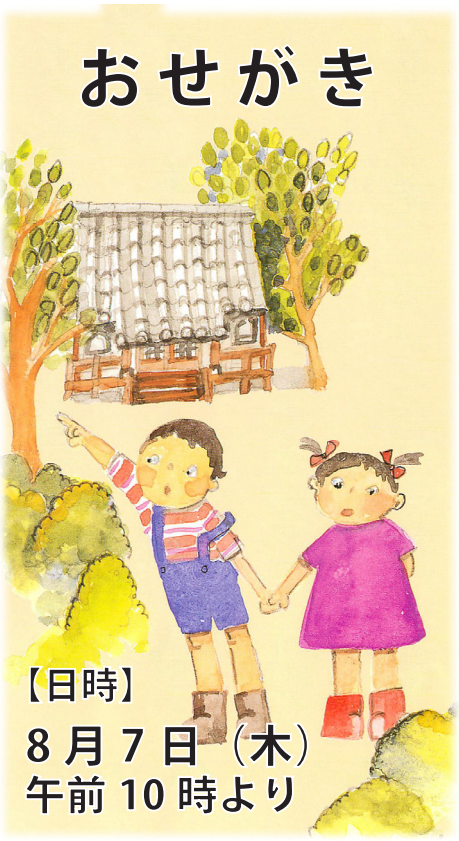
では、日本には読み書きができない人なんていないと思っていませんか。実は、その調査はされていないそうです。森実先生によれば、1960年頃から日本政府は国連に「日本に識字問題はない」と報告し始めたといいます。何故かというと、「読み書きがまったくできない」という識字概念によるもので、ひらがなやカタカナを一文字も書けない人は、ほぼいないという調査結果に基づいているということです。しかし、1955年以降はこのような調査は何故か行われていないのです。

森実（もりみのる）先生は、「しきじは差別と人権の抑圧が生み出してきたものだが、一方でしきじはリテラシーと英訳されてきたが、現在ではもっと広義なとらえかたがなされている。それを、教養主義的なとらえ方、機能的なとらえ方、社会変革的なとらえ方、社会・文化拘束的なとらえ方とされている。」と話されました。

セミナーでは現場からの報告として、よみかき教室のボランティア活動をされている女性、日本語センターの事務局長、夜間中学の先生と3人の方々が報告されました。それぞれのお話を聴くうちに、基本的人権という基本的な課題が識字にも十分にうかがうことができます。だれもが幸せに、だれもが平等に、そんな基本的なことを忘れていることに気づかされました。自分のまわりにそんな問題が存在しないと思っていましたが、案外すぐ近くにあるかもしれません。気づいていないだけかもしれません。

社会情勢とともに差別も変わるものでありニーズも変化します。いつもそのような社会の流れをキャッチするアンテナを張り巡らせることが必要であると感じました。気づき、なんですね。

おせがき



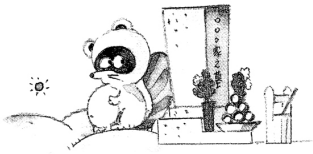
施餓鬼会は、お釈迦様の十代弟子のお一人、阿難尊者の故事により、飲食供養の功徳により亡者を救う行事として起こったものです。「餓鬼に施す」と書きますが、餓鬼とは六道のひとつで、苦しみの世界であり、食べ物が無い飢えの世界なのです。しかも、餓鬼は自分の力で餓鬼世界から抜け出すことができないため、施餓鬼供養がその救いの道とされています。有縁はもとより、無縁の衆生に対しても供養する法要であり、自分自身に与えられた生命に感謝する意味合いもあります。

今年も多数の和尚様により法要を執り行います。施餓鬼はもともと初盆など特定の霊を供養するだけのものではなく、ご先祖様を始め、志す精霊にご供養することによって施主皆様の現世安穏が得られるといわれています。ぜひ、ご家族お揃いでお参りください。

なお、施餓鬼会の日程と今年初盆を迎えられる方は下表のとおりです。

施餓鬼会にお参りください

順番	時間	施主（敬称略）	
1	10:00	山門大施餓鬼・添施餓鬼	
2	10:15	横谷　義明　家	佐田
		柴田　　誠　家	豊岡
3	10:30	川戸　堅一　家	佐々木
		岡田志津夫　家	豊岡
4	10:45	中島　香織　家	神戸
		森下　秀夫　家	栗尾
5	11:00	平石　三朗　家	出石
		藤田　浩樹　家	栗尾
6	11:15	鶏魂供養	



まもなくお盆を迎えます。お盆は、普段から何も催促なさらないご先祖さまとの語らいの時でもあります。8月13日が迎え火にあたり、16日が送り火です。お墓をきれいに掃除して、ご家庭では仏壇を丹念に掃除して、お花、ろうそく、お線香、果物、お菓子、季節の野菜などを供えます。

お寺からは、9日から13日の間、棚経といって各檀家を廻って回向いたします。左表の日程で参る予定ですが、諸般の都合から急遽変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。朝から廻りはじめますが、後半は午後になります。

平成 26 年　お盆参りの日程

棚経実施日	地　　域
8月9日（土）	清滝→本城→柴地→山根→貝田
8月10日（日）	久畑→石原→佐田→大貝→平田→佐々木
8月11日（月）	南尾→（施餓鬼会出頭）→出石町（午後）
8月12日（火）	豊岡市→福知山市→岩滝
8月13日（水）	西谷